

データ教材集 第1集

つたえる練習 I の

学習目的



「つたえる練習」の技法

コミュニケーション・アプローチ

話し手と聞き手のあいだの
コミュニケーションギャップ（情報の差）を
利用した活動

障壁を越えて、伝え合う活動を通して、
コミュニケーションに対する意欲や
他者との協調性を育てて行く

つたえる練習の学習の目的

★つたえる練習には以下のような多種の学習目的・意義があります。

- 語彙の学習
- 文法の学習
- 言語調整能力の育成
- 伝達意欲の向上
- 心理洞察能力の向上
- 課題構造の理解
- 写像能力の向上
- 状況への注意
- 自己決定力
- 協調行動の向上

● 語彙の学習

つたえる練習で、情報を伝達するためには、まず各課題に出て来る事物や生物の名称や、動作語など、さまざまな語彙を習得している必要があります。

同じ事物や生物が、課題の中に繰り返し登場します。課題を進めて行く中で、徐々に理解・表出できる語を広げて行くねらいがあります。

● 文法の学習

各課題に、伝達に際して表現すべき文型が示されています。自分の作った状況を、文型に当てはめて、表現することを通して、構文に対する意識を高めるねらいがあります。

また、指導者から子どもへの伝達練習の場合は、2語連鎖以上の単文の聴取・理解のトレーニングになっています。「ライオンがリンゴを食べる」などの文を聞いて、正しく理解する能力を育てます。

● 言語調整能力の育成

子どもから指導者に情報伝達をする場合、情報が相手に正しく伝わったかどうかを、子どもは逐次、確認していかなければなりません。

正しく伝達がなされていた場合は、指導者からの「これでいい？」という確認に対して、「うん」や「はい」などの**肯定表現**をすることが、円滑なやりとりのために大切です。

逆に正しく伝達されていない場合は、まず「ちがう」とはつきりと**否定**をし、さらに「～じゃなくて～だよ」などの**修正表現**をすることが、求められます。これらの表現技法を学習する目的があります。（そのために、意図的に指導者が間違える、という方法もあります）

● 伝達意欲の向上

「つたえる練習」は、コミュニケーション・ギャップの設定に特色があります。自分の作った状況を相手に見せることができないので、自分のことばや身振りで伝えるしかありません。そのような、コミュニケーション・ギャップの状況は、日常の生活場面においても、たくさん見られると思います。

何とか壁を越えて、相手に伝えよう、とする行動が、伝達の困難さへの耐性を高め、実用的なコミュニケーション能力の向上に、つながるのではないかと考えています。

●心理洞察能力の向上

課題を行っているとき、相手からは自分の用紙が見えていないことに気づかず、「ここだよ、ここ」と言って、自分の用紙を指差す子どもがいます。また、位置を伝える課題でまだりんごの位置を相手に伝えていないのに、「りんごの右がバナナ」というように、伝えていない事物を起点に、説明する子どもがいます。

これらの誤りは、自分と相手の持っている情報の違いが、洞察されていないことから生じています。「伝わらない」というトラブルを通して、相手の立場になって考え、判断する、という心のメカニズムを育てていければと思います。

● 課題構造の理解

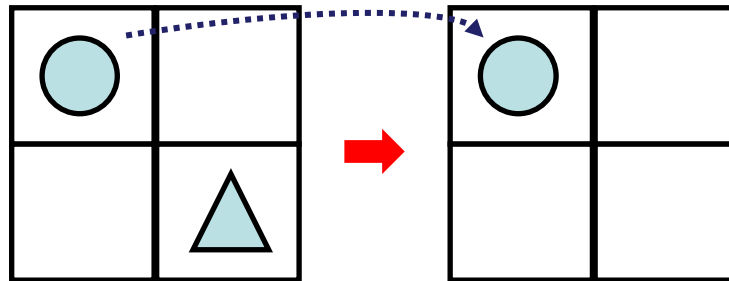
「つたえる練習」のやり方が、よく理解できていない、という子どもも多くいます。(例: 指導者が誤ってピースを貼ると、急いで自分の用紙を直そうとする)

出された問題に解答し、正解・不正解が決まっている、という一般的な学習に慣れている子どもにとっては、自分が主体となって状況を作り、それを伝達する、という仕組みは、難しいかもしれません。

その場合、まず、「役割」という概念を、子どもに持たせることが大切だと思います。自分は「伝える係り」なんだ、という意識が必要です。そのような点で、「つたえる練習」には、自己意識を高める意義もあります。

● 写像能力の向上

写像とは、一定の状況や構造を、他の場所に移し替えることです。たとえば、以下の左のような状況を、右に写像すると…



このような写像の能力が、「つたえる練習」には、ある程度求められます。課題を行う際、子どもは自分の手もとにある用紙と、指導者の掲げる用紙との対応関係を、常に確認しなければなりません。このような写像のトレーニングの目的もあります。

●状況への注意

つたえる練習でやりとりをしていると、指導者が誤ってピースを貼っていても、気がつかない子どもが多くいます。自分の手もとの状況と、相手の状況との見比べがなされないことから生じるエラーです。

コミュニケーションでは、モニタリング能力が重要とされています。ただ一方的に述べ立てるだけではなく、内容が相手に正しく伝わっているかどうか、を客観的に把握する能力です。つたえる練習では、伝達結果のチェックという行動を通して、状況への注意や、モニタリングの能力を育てるねらいがあります。

● 自己決定力の育成

練習課題の補足でも触れていますが、子どもから指導者への伝達の場合、どこに何の絵(ピース)を配置するかは決められていません。自分の裁量で、決めてくれればいいわけですが、それが苦手が子どもが多くいます。

とくに自閉的傾向を持つ子どもは、状況を作るに当たって、何か法則があるのではないかと悩んで、作業が進まないことがよくあります。また課題としては理解できているけれども、自由に決める、ということをお好まない、という子どももいます。つたえる練習は、そのような子どもたちに、自分が主体となって物事を決定する力＝自己決定力を育てる目的があります。

● 協調的行動の向上

練習場面で、まだ指導者がピースを貼り終えていないのに、もう次の情報を伝えようとする子どもがいます。また、指導者が「これでいい？」と確認を求めても、はっきりとYes-Noの意思表示をしないこともあります。これらは、コミュニケーションにおける協調性の問題です。

コミュニケーションは、ひとりの行動や能力で成立するものではありません。相手と自分が、互いに歩み寄って成り立つものです。役割交替(かわりばんこ)についての理解も大切です。コミュニケーションは相手との協調により成り立つものだ、ということを、子どもに理解してもらうのも、目的のひとつです。

以上の学習目的以外にも、今回の特色である切り貼り作業の習熟や、道具の貸し借りにおけるマナーの学習など、さまざまな学習要素があります。

楽しく練習しながら、いろいろな学習を進めていただければ幸いです。

